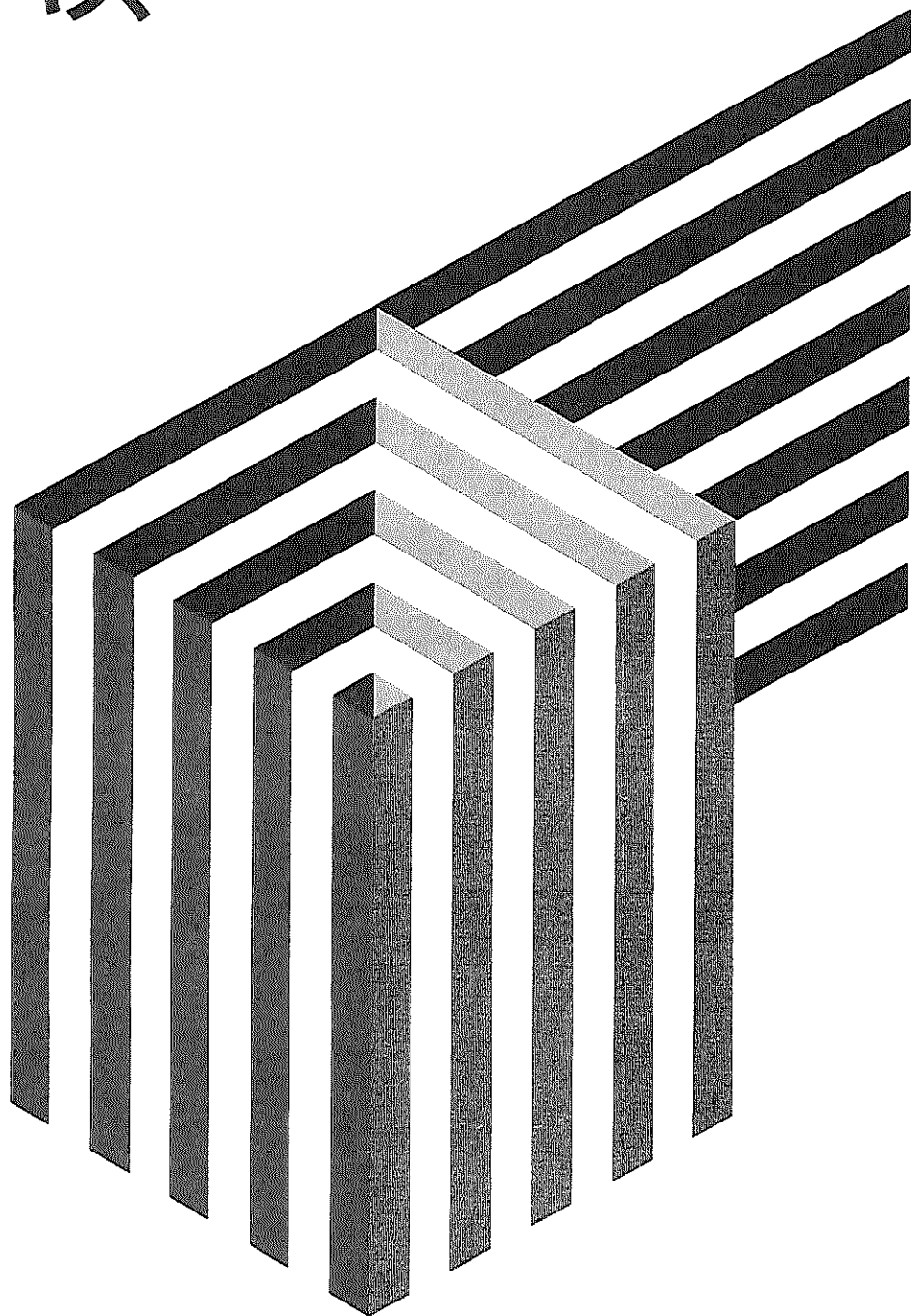


フランス語学科 シラバス



1994年度
Université Dokkyo

目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
- ③ 科目名と指導教員名の間に [] で科目名が記載されている場合があります。これは、入学年度の異なるカリキュラムの科目と合併でおこなわれる授業です。

表示の仕方

[] 内 () はこの科目名の適用するカリキュラムを示します。

(新) ……新カリキュラム；1994年度入学者に適用

(旧) ……旧カリキュラム；1993年度以前入学者に適用

目 次

—新カリキュラム—

(1994年度入学者に適用)

「フランス語学・文学」部門

フランス文学概論

- | | | | |
|---|------------------|---------|---|
| 1 | 〔(旧) フランス文学概論 1〕 | 小 椋 順 子 | 4 |
| 2 | 〔(旧) フランス文学概論 2〕 | 山 内 宏 之 | 6 |

「フランス文化・社会」部門

- | | | | |
|--|-------------|---------|---|
| | フランス文化・社会概論 | 松 山 恒 見 | 8 |
|--|-------------|---------|---|

目 次

—旧カリキュラム—

(1993年度以前入学者に適用)

「フランス語」部門

フランス語作文

1	戸とおる	10
2	小石 悟	12
3	M. 水 林	14
4	P h. Vanney	16

フランス語会話

6	S. Giunta	18
11	R. 佐久間	20

時事フランス語

1	伊 藤 幸 次	22
2	若 森 榮 樹	24

商業フランス語

1	浅 野 信二郎	26
2	根 岸 力 松	28
3	松 本 正	30

「フランス語学」部門

フランス語史	山 田 秀 男	32
--------	---------	----

フランス語学特殊講義

1	戸とおる	34
2	木 下 光 一	36

「フランス文学」部門

フランス文学概論

1	〔新〕フランス文学概論1	小 椋 順 子	4
2	〔新〕フランス文学概論2	山 内 宏 之	6

フランス文学各論1	井 村 順 一	38
-----------	---------	----

フランス文学特殊講義

1	川 俣 晃 自	40
2	松 山 恒 見	42

「フランス文化」部門

フランスの地誌	鈴 木 隆	44
---------	-------	----

フランスの歴史	藤 田 朋 久	46
---------	---------	----

フランスの哲学	若 森 榮 樹	48
---------	---------	----

フランスの美術	前 川 久美子	50
---------	---------	----

フランスの音楽	松 橋 麻 利	52
---------	---------	----

フランスの演劇	江 花 輝 昭	54
---------	---------	----

フランス事情	小 石 悟	56
--------	-------	----

フランスの政治	井 上 スズ	58
---------	--------	----

フランスの経済	千代浦 昌 道	60
---------	---------	----

フランス文化特殊講義

1	佐 藤 正 之	62
---	---------	----

2	鈴 木 隆	64
---	-------	----

3	横 地 卓 哉	66
---	---------	----

フランス文学概論 1

担当者：小椋 順子

研究室：[412]

テキスト：

目 標：中世より、18世紀頃までの、フランス文学における主要な作家、作品を解説しながら、各時代を概観し、流れを追う。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	講義の進め方を説明。参考図書を紹介、解説。
	2	中世の概観。
	3	武勲詩
	4	物語
	5	16世紀概観。
	6	ルネッサンスのユマニストたち
	7	プレイアード派
	8	リヨン派
	9	17世紀の文学・古典主義
	10	演劇
	11	“
	12	“
備考		

	週	内 容
後 期	1	17世紀の心理小説
	2	”
	3	”
	4	”
	5	18世紀展望
	6	思想家たち
	7	”
	8	”
	9	演劇
	10	”
	11	ロマンチズムの芽生え
	12	”
備考		

評価方法：前後期レポート提出・提出期限については授業時に発表。
 (提出課題、試験等)

フランス文学概論 2

19～20世紀の文学

担当者：山内 宏之 研究室：[405]

テキスト：特に使用しない。

目 標：19世紀から20世紀までの文学を概説する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
1	第1回目の授業では年間の授業方針の説明と、参考文献等の紹介を行う。
2	第2回目の授業では大革命の文学的影響について述べる。ロマンチズムの準備について述べる。
3	第3回目の授業ではスタール夫人について述べる。
4	第4回目の授業ではスタール夫人とシャトーブリヤンについて述べる。
5	第5回目の授業ではシャトーブリヤンの芸術と、その影響について述べる。
6	第6回目の授業ではロマンチズムの詩人、ラマルチーヌ、ヴィニー、ヴィクトール・ユゴー、その他について述べる。
7	第7回目の授業ではミュッセ、テオフィール・ゴーチエについて述べる。
8	第8回目の授業ではヴィクトル・ユゴーとその作品について述べる。更に、バンジャマン・コンスタン、セナンクール、ジョルジュ・サンドについて述べる。
9	第9回目の授業ではサント・ブーヴ、オノレ・ド・バルザックについて述べる。
10	第10回目の授業ではバルザックと、その作品について述べる。ロマンチズムから写実主義への橋渡しとしてバルザックを見る。
11	第11回目の授業ではサント・ブーヴ、スタンダールについて述べる。
12	第12回目の授業ではスタンダールと、メリメについて述べる。
備考	

週	内 容
1	第1回目の授業ではミシュレについて述べる。更に、ボードレールについて、述べる。
2	第2回目の授業では科学的実証思想の時代、フローベール、自然主義のゾラ、モーパッサンについて述べる。
3	第3回目の授業では近代詩人、ヴェルレーヌ、ランボーについて述べる。ユイスマンスについても言及する。
4	第4回目の授業ではマラルメについて述べる。
5	第5回目の授業ではバルベ・ドールヴィイについて述べる。ロマン・ロランについても言及する。
6	第6回目の授業ではアナートル・フランス、ロスタンについて述べる。
7	第7回目の授業ではクロードルについて述べる。モーリヤックについても言及する。アンドレ・ジッドについても述べる。
8	第8回目の授業ではヴァレリーについて述べる。サルトルについても述べる。
9	第9回目の授業ではマルロー及びカミュについて述べる。
10	第10回目の授業ではサルトル、カミュについて述べる。マルローについても少し補足する。
11	第11回目の授業ではブルーストについて述べる。
12	第12回目の授業ではベルクソンについて述べる。
備考	以上のことは、あくまで目安であって、学生の人数、作家、作品について概説するのに要する時間、その他、諸々の状況によりシラバス通りにならない場合もある。

参考文献：教室において指示する。

評価方法：前期・後期各1回の試験と授業への出席状況によって評価する。この授業を（提出課題、試験等）とする学生は必ず4月の第1回授業に出席することを要する。その時、授業のすすめかた、評価のしかた等、くわしく説明する。

フランス文化・社会概論

担当者：松山 恒見 研究室：[410]

テキスト：なし。

目 標： 科目の性質上、個々の事項の徹底的見解は断念し、むしろ全体像の近似的把握に甘んずるわけであるが、同時に、学生の個人的関心に応じて、そのテーマについての学習の出発点として有効であることを心がける。

年間予定 () 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前	1	フランスの国旗、国歌、国籍、民族。(国歌はフランス語歌詞を配布。一番を歌えるようになることを年間の目標の一つとする。)
	2	フランスの国語(時代区分、方言。関連するかぎりでの作家、作品の解説)
	3	フランス革命とそれに続く第一共和国から第五共和国に至る歴史概観。(簡単な年表作成を課題とする。)
	4	第一次世界大戦、第二次世界大戦のアウトライン。ベトナムおよびアルジェリアの問題。(簡単な年表作成。)
	5	フランスの政治のうち、憲法、大統領、内閣、国会について概説。(上下両院大統領官邸を含むパリの略地図作成。)
	6	フランスの行政区割、海外領土。(フランスの地図作成を課題とする。)
	7	フランスをかこむ海と、国境を接する国。フランスの四大河川と山岳を中心にその自然地理。(フランスの地図作成第二回)フランスの気候。
	8	フランスの農業、工業、貿易。(フランスの地図作成第三回)
期	9	フランスの社会問題、労働問題。警察制度、裁判制度。
	10	フランスの防衛問題、E C。E c uからヨーロッパ統合へ。
	11	フランスとドイツ、フランスと英米、フランスと日本。
	12	予備。順調な場合は、ワイン、チーズ、料理、香水、オートクチュール、自動車などについての常識。
備考		

	週	内 容
後 期	1	フランス文化概論（過去における外国人のフランスに対する評価と、フランス人自身の認識）
	2	フランス語と英語（相互の歴史的交流、文法の比較等）
	3	フランスの美術（絵画、彫刻はもちろん教会建築、ステンドグラス、タピストリー、陶器など）
	4	フランス人の宗教（信仰、宗教行事、祝祭日など）
	5	フランスの右翼（ジャンヌダルク、ナポレオン、ル・ペン）フランスの左翼、（パリ・コムミュヌ、人民戦線）
	6	フランスの科学（パスカル、デカルト、ラヴォアジエ、パストゥール、キュリー夫人など）
	7	フランスの教育（学校制度と各種のディプローム）
	8	フランスの音楽、演劇、マスコミ。
	9	フランスの文学（中世から十七世紀まで）
	10	フランスの文学（十八、十九世紀）
	11	フランスの文学（二十世紀）
	12	予備。順調に行った場合は、一年間の学習内容の総括。（学生の質疑も含める）できればフランス国歌斉唱（一番のみ）
備考		

評価方法： 提出物（上記の年表・地図）を参考にすが、前期、後期2回のテストの（提出課題、試験等）平均を中心として評価する。提出物の期限はすべてその翌週の講義時間。

なお、年表は極めて簡単なので、日本語の中に入ったフランス語（クーデタ、レストランなど）のような短時間でできる課題を抱き合わせることもあり得る）

フランス語作文1

担当者：一戸 とおる 研究室：[408]

テキスト：適宜コピー

目 標：日本語の新聞記事を，対応するLe Mondeの記事を参考に仏訳する。仏語の記事を熟読することによって，表現をパターン化し，日本語のなかに，この表現パターンを見いだす練習をする。これによって，仏語表現能力を養う。

年間予定 ()曜日：()限：()棟()

	週	内 容
前 期	1	前年度後期試験の講評，ならびに，授業の目標と，具体的な進め方の説明。
	2	事故関連記事（飛行機墜落，船舶沈没，ガス爆発，洪水，など）の仏訳。
	3	同上。
	4	同上。
	5	同上。
	6	スポーツ関連記事（テニス，陸上，自転車，サッカー，など）の仏訳。
	7	同上。
	8	同上。
	9	同上。
	10	政治関連記事（選挙，首脳会議，スキャンダル，など）の仏訳。
	11	同上。
	12	同上。
備考		

	週	内 容
後 期	1	前期試験の講評。
	2	賞関連（ノーベル賞，カンヌ映画祭，音楽コンクール，など）の仏訳。
	3	同上。
	4	同上。
	5	同上。
	6	死亡記事（文学者，政治家，学者，デザイナー，など）の仏訳。
	7	同上。
	8	同上。
	9	同上。
	10	3面記事（殺人，強盗，麻薬，詐欺，など）の仏訳。
	11	同上。
	12	同上。
備考		

評価方法：授業への参加態度の積極性の有無，ならびに，前期・後期の定期試験を総合（提出課題、試験等）して，評価する。

フランス語作文2

担当者：小石 悟 研究室：[417]

テキスト：なし

目 標：日本のテレビ番組を見ながら直接フランス語に直す練習をします。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	学生の進歩の度合いによってその都度番組を変える。
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

	週	内 容
後 期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

評価方法：出席率・平常点・宿題・およびテスト（すべて行ないます）
（提出課題、試験等）

フランス語作文 3

担当者：M. ミズバヤシ 研究室：[413]

テキスト：プリント

目 標：Nous nous proposons, dans un premier temps, de revoir les structures les plus courantes de la langue française au moyen d'exercices systématiques et, dans un deuxième temps, les étudiants seront amenés à écrire de petits textes sur des sujets variés.

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	Situer dans le temps (1)
	2	Situer dans le temps (2)
	3	Localisation dans l'espace (1)
	4	Localisation dans l'espace (2)
	5	l'expression de la cause (1)
	6	l'expression de la cause (2)
	7	l'expression de la conséquence (1)
	8	l'expression de la conséquence (2)
	9	l'expression du but (1)
	10	l'expression du but (2)
	11	l'expression de l'opposition (1)
	12	l'expression de l'opposition (2)
備考		

	週	内 容
後 期	1	Révisions (1)
	2	Révisions (2)
	3	l'expression de la condition (1)
	4	l'expression de la condition (2)
	5	l'expression de la comparaison (1)
	6	l'expression de la comparaison (2)
	7	les temps du verbe (1)
	8	les temps du verbe (2)
	9	les temps du verbe (3)
	10	les temps du verbe (4)
	11	Ecrivons un conte (1)
	12	Ecrivons un conte (2)
備考		

評価方法 : CONTRÔLE CONTINU ET EXAMENS

(提出課題、試験等)

フランス語作文 4

担当者: Ph. M. R. ヴァネ 研究室: [406]

テキスト: Polycopiés

目 標: Se faire comprendre et convaincre le lecteur en écrivant avec logique et clarté. Notions de résumé et de plan.
Rédactions de devoirs autocorrigés.

年間予定

() 曜日: () 限: () 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	Présentation du cours, du travail demandé et mises au point en fonction des étudiants.
	2	Reconstitution de phrases.
	3	Reconstitution d'un texte.
	4	Logique du texte: les paragraphes et leur articulation. (DEVOIR)
	5	Logique du texte: recherche du titre.
	6	Résumé du texte.
	7	Notion de ponctuation.
	8	Ponctuer un texte. (DEVOIR)
	9	Logique du texte: les paragraphes et leur articulation.
	10	Logique du texte: le titre.
	11	Logique du texte: résumé. (DEVOIR)
	12	Conclusions du premier semestre et remise des devoirs.
備考		

週	内 容
1	Les articulations dans la phrase.
2	Expressions de la cause.
3	Expressions de la conséquence.
4	Expressions de l'opposition. (DEVOIR)
5	Expressions de l'hypothèse.
6	Expressions de l'hypothèse.
7	Recherche des articulations d'un texte.
8	Plan et résumé. (DEVOIR)
9	Notions d'introduction et de conclusion.
10	Recherche des articulations d'un texte.
11	Plan et résumé. (DEVOIR)
12	Conclusions générales et remise des devoirs.
備考	

- 参考文献：— *Comment dire? Raisonner à la française*, Clé International.
 — *Ecrire avec logique et clarté*, Hatier, Collection Profil.
 — *Du paragraphe à l'essai*, Hatier, Collection Profil.
 — *Le résumé de texte*, Hatier, Collection Profil.
 — *Un point, c'est tout!*, J.P. Colignon, Ed. CFPJ
 — *Traité de la ponctuation française*, J. Drillon, Gallimard.

フランス語会話 6

担当者：S. ジュンタ

テキスト：SANS ESCALE H. Kurakata / s. Giunta (SOBI SHUPPANSHA)

目 標：

年間予定 () 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	Ce cours aura pour objectif la communication. Des dialogues seront présentés et exploités en classe. Des exercices et jeux donneront aux
	2	étudiants les outils nécessaires pour pouvoir communiquer en français. Divers thèmes de la vie quotidienne seront présentés, thèmes qui seront
	3	de la plus grande utilité lors d'une visite ou d'un séjour en France.
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

	週	内 容
後 期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

フランス語会話 1 1

担当者：R. 佐久間

テキスト：Le petit Nicolas (publisher Denoël Folio), Sempé-Goscinny

目 標：Notre but est d'approfondir la connaissance du français parlé.

年間予定 () 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容	
前 期	1	Un souvenir qu'on va chérir Comment raconter une histoire.	(p. 5 à 13)
	2	Les cow-boys	(p. 14 à 21)
	3	Le bouillon	(p. 22 à 29)
	4	Le football	(p. 30 à 38)
	5	On a eu l'inspecteur	(p. 39 à 47)
	6	Rex	(p. 48 à 55)
	7	Djodjo	(p. 56 à 63)
	8	Le chouette bouquet	(p. 64 à 72)
	9	Les carnets	(p. 73 à 79)
	10	Lovisette	(p. 80 à 87)
	11	Révision des textes étudiés	
	12	Contrôle des connaissances.	
備考			

週	内 容
1	On a répété pour le ministre (p. 88 à 93)
2	Je fume (p. 94 à 102)
3	Le petit povcet (p. 103 à 109)
4	Le vélo (p. 110 à 117)
5	Je suis malade (p. 118 à 125)
6	On a bien rigolé (p. 126 à 133)
7	Je fréquente Agnan (p. 134 à 141)
8	M. Bordenave n'aime pas le soleil (p. 142 à 148)
9	Je quitte la maison (p. 149 à 157)
10	Révision des textes étudiés au deuxième semestre.
11	Chaque étudiant présentera le texte qu'il a préféré. (travail oral)
12	Contrôle des connaissances (travail écrit)
備考	

評価方法： Premier semestre: Un contrôle des connaissances (travail écrit) au
(提出課題、試験等) dernier cours

Deuxième semestre: Une présentation orale et un contrôle des
connaissances au dernier cours.

時事フランス語 1

担当者：伊藤 幸次 研究室：[415]

テキスト：Clés de l'Actualité, France 2

目 標：時事的なフランス語について基本的な単語力、読解力をつけると共に、同レベルでの聞き取り能力を目指す。結果として読解は仏検二級程度、聞き取りは一級以上となる。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	教材と授業パターンの簡単な紹介を行う。特に映像を見ながらある程度聞き取れるかどうかを自分で判断する。
	2	本格授業開始。第一回プリント配布。登録予定者の確定。登録者の確定は、もし教務の対応が昨年通りであれば、第一週に行う必要がある。
	3	20分間のフランス語ニュース視聴と内容把握練習。好みのテーマについてのアンケート。アニメ、カコミ記事などにより簡単な口頭表現に接する。
	4	3分間のニュースを日仏両語で視聴する事により、基本的な耳なれを行う。 用語解説・背景説明の記事を読み新聞読解入門を行なう。
	5	耳なれの継続。キーワードの把握。一～二行の書き取り。 本文記事の検討。
	6	5週目の続き。コマーシャル、スポーツ番組等の紹介。 本文記事精読。
	7	6週目の続き。料理番組・TVドラマ等紹介。 口頭表現をまとめて検討する。
	8	10行程度の書き取り。 用語解説・背景説明まとめ。
	9	俗語・方言等紹介。 本文記事速読。経済・政治・外交。
	10	キャスター方言・政治家方言の検討と模倣。レポート(カセット録音)課題。 別プリントによる広告・気象情報などの解読。
	11	模倣による口頭表現練習。 別プリントによる株式・経済・趣味記事解読。
	12	レポート・カセット提出。20分視聴訓練。 全記事12ページ速読訓練。
備考		印刷教材は仏高校生向け時事解説週刊紙。 視聴覚教材は衛星放送によるテレビ・ニュース(原則として当日のもの)。

週	内 容
1	前期の計画は上記の通りであるが、あく迄計画であって大幅な変更があるであろう。時事フランス語という科目の性格上、常時新鮮な素材を提供しなければ
2	ならないが、入手には多大な困難が伴う。平易で必要十分なテキストはいつ発行を中断するかも知れず、放送番組の変更は予測不可能である。より適切な素
3	材があればそれに切り換えたいし、どうしても取り扱いたい世界史的事件があればそれに集中したい。また毎回学生諸君の要望・感想をカードに記入しても
4	らっているので、その手応えに合わせて授業方法が変ってくるのは当然である。言い換えれば常にホットな状態で教室に向いたいと考えている。それを半年前
5	に週毎の計画を立ててシラバスにのせろとは無理な要求ではなかろうか。無理でない授業は、きっと冷凍食品のように味気ないものに違いない。勿論、安易
6	な方法もあって、Le MondeやNouvel Obの記事をコピーして配ることもできる。しかしこれらの記事はそれぞれ用語・内容・文章共に特殊
7	なものであって、その特殊性に到達する前に一般的な準備が不足している学生には無益な責苦に過ぎない。また、これだけ視聴覚情報が豊かである時代に、
8	それを利用せぬテはないであろう。とかく不足しがちな聞き取り、表現能力の向上にもつながることなのだから。
9	
10	
11	
12	
備考	

評価方法：毎回出席カード（大・小）を配布し、その裏面に感想・要望・アンケートな（出課題、試験等）などを記入してもらう。単語の聞き取り・文章の書き取りなどの小テストも行う。活字教材については指定されたグループ毎に発表する。また学期末には文章の朗読を録音したテープを提出してもらい、これらも総合した平常点で評価する。

時事フランス語2

担当者：若森 榮樹

研究室：[419]

テキスト：《le monde》, 《le Nouvel Observateur》等の記事。

目 標：ヨーロッパ的なフランスの代表的な新聞や雑誌の記事を読み、政治・経済・文化に関する観点を学び、語学力をつけること。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	第一回目の授業では (1) 1年間の講義概要の説明を行なう。
	2	フランスの代表的な新聞《ル・モンド》の政治に関する記事を読み、政治に関する基本的語彙と発想を学ぶ。
	3	同上(2)
	4	同上(3)
	5	同上(4)
	6	同上(5)
	7	《ル・モンド》以外の新聞の記事を読み、その表現や発想を学ぶ。ここでは政治に限らず、広く文化一般の記事を扱う。
	8	同上(2)
	9	同上(3)
	10	同上(4)
	11	同上(5)
	12	第12回目の授業では (1)前期授業のまとめと (2)レポートのテーマの発表を行なう。
備考		

	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では前期レポートの講評を行なう。
	2	《le Nouvel Observateur》よりの抜粋を読む。とくに重要な政治家や時の人についての記事を選ぶ。
	3	同上(2)
	4	同上(3)
	5	同上(4)
	6	同上(5)
	7	学生諸君に現代政治・経済の問題について発表をしてもらい(5~10分程度)、それについて討議する。
	8	同上(2)
	9	同上(3)
	10	同上(4)
	11	同上(5)
	12	第12回目の授業では、後期授業のまとめと(2)後期試験についての指示を行なう。
備考		

評価方法：レポートおよび試験の総合点により評価する。

(提出課題、試験等)

フランスの新聞、雑誌を広く読み、かつ学んだことを使えるように指導したい。文献については授業の際指示する。

商業フランス語 1

担当者：浅野 信二郎

テキスト：L. CORADO et als : Français des Affaires 350 exercices.

目 標：本講義では、上記教科書と共に、多くのプリント類（実務で使われたもの）も多用し、十分な予習をする意欲のある学生を、簡単な商業文を書けるようにすることを目標とする。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	教科書の利用法を説明し、受講希望者の学力レベルをチェックするために履歴書をプリント資料のひな形に従って書かせる。予習：教科書pp8～11を命じる。
	2	添削した各自の履歴書に従って、全般的な注意と、実際の仏日の違いについて考え、pp10～#4～11の専門用語の説明。予習：pp12～14。
	3	La phrase pp12～14の練習。経済関係用語の説明。P10#3以降の選択肢の別語について説明。フランス語週刊誌の記事の和訳を宿題とする。
	4	商業文の形式をNiZ-11-001 他により、各要素とそれぞれの配置について説明し、en têteの記載事項の利用法を考える。資料”フランスの会社”
	5	pp29～30 本文の書き出しと末尾文についての練習と説明。レストランでの注文の仕方、ワインの産地との関係を考える。
	6	第3回の授業で出題の和訳について講評し、業務的な和訳について考える。教科書pp31～33の練習によって、要点のつかみ方を習得させる。
	7	フランスの法人の形態についての説明。教科書pp23～26 テレックスでの省略法の説明。資料：輸出信用状。予習：教科書 pp37～38。
	8	Mise en ordre de lettres (pp37～38) に従って、本文の論理的構成の練習をする。信用状、建値についての説明。予習：教科書 pp39～42。
	9	Lettres à compléter #1～4 (pp39～42) の練習。欠落に入れる要素の論理的関連から適確な用語の選び方を練習する。予習：pp43～47。
	10	pp39～42 #1～#4の練習を通して、不定法文の使い方、用語の選び方の練習をする。予習：教科書 pp43～47。
	11	pp43～47 #5：#9 学生が使用した語によって、これ迄の授業の内容の理解度をチェックし、必要に応じて、補足説明する。
	12	前期試験
備 考		

週	内 容
1	前期試験の結果の講評。教科書 p 48 (Redaction de lettres) の所与の要件を使って、# 1 の問合わせの手紙を書く練習をする。予習：p48 # 2, # 3。
2	# 2 # 3 受註の手紙（無条件受諾と希望されたより長い納期が必要）な手紙を書く練習をし、各学生の水準に応じた助言をする。予習：pp49～52。
3	決済条件についての説明。# 6 Reports d'écheance の要求に対する返事を書く練習をする。ホテルのクラス (NN) の要件の説明。
4	価格提示の際の建値 (FAB CAF 等) の復習をし、p 52 Appel d'offres (引合い) に対するオッファー文を書く練習をする。
5	pp56～58 Lettres à corrigerで、商業文の用語と日常会話での用語の違いを再認識させる。予習：教科書 pp103～106。
6	pp103～104 traductions de phrases 1. La vente～2. L'entrepriseで、日本語の実社会での表現法の練習をする。
7	pp104～106 3. L'economie～5. Le personnel 第6回目と同趣旨での練習をし、日仏での商習慣の違いも考える。予習：教科書 pp107～109。
8	pp107～109 Traduction de lettres 1～3 の練習。必要な情報の集め方について考える。予習：教科書 pp110～111。
9	pp110～111 契約の締結に当たっての具体的な注意事項について確認する。 p 60～61 記事の理解にも、背景その他一般常識、専門知識の必要性を考える。
10	Documets de vente の説明。輸出信用状の再説明。会話での丁寧さの度合いの違いについて考える。引合文を書く練習をする。
11	引合文の講評。商品を注文するか、又はホテルに部屋を予約する手紙を書く練習をする。
12	第11回での手紙の講評。学生たちの間違いを指摘、商業文的表現の復習をし、再説明する。
備考	

評価方法：授業への出席、毎授業中の小練習の評価、宿題の提出期限の遵守度と成果の（提出課題、試験等）累積評価と試験の結果によって評価する。

商業フランス語 2

担当者：根岸 力松

テキスト：Le français commercial, MANUEL 1, G. MaugerLarousse

目 標： 極めて常識的な商業関係のフランス文の読解力を身につけ、テキスト中に掲げられている通信文の範例を習得できれば御の字である。1章を1回または2回の授業でみて行きたいと思っている。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
1	商業とは何か、その主たる領域は何か、その地理的観点から、また、規模の見地からはいかなる分類になっているか等および、通信文の序論(PP. 51-59)
2	商業および流通ルート、仲介業者について検討。求人求職に関する通信文の範例を学ぶ。(PP. 60-72)
3	第1週および第2週の予定事項で未修個所を研究する。
4	商社、商会、商店における構成員について概略の検討を行なう。出張員に関する通信文に若干あたってみる。(PP. 73-83)
5	商社およびその運営について読解を行なう。通信文については、情報の請求並びにその請求に関しての回答文を学ぶ。(PP. 84-93)
6	第4週および第5週において予定事項中未修個所を研究する。
7	店舗、賃貸借契約、リース、抵当権、権利金、等を概略研究する。商社に関する情報についての通信文。(PP. 94-102)
8	卸商および小売商について研究を行なう。商社の設立および改築に関する通信文を検討する。(PP. 103-111)
9	第7週および第8週における研究予定事項中、未修個所を研究する。
10	市場およびマーケティングについて学ぶ。当該の商品に関する情報についての通信文の研究を行なう。(PP. 112-121)
11	広告および広告媒体について検討を行なう。通信文については、商品の呈示に付随し回状またはカタログの送付に関する範例を学ぶ。(PP. 122-132)
12	第9週および第10週における研究予定の事項中、未修の個所を研究する。
備考	() 内は教科書の頁数を示す。

	週	内 容
後 期	1	郵便および電気通信に関し簡単な記述事項を学ぶ。通信文については商品の注文および、その調達に関するものを研究する。(PP.133-144)
	2	陸路運送についての記述事項を学ぶ。通信文については、注文の不履行およびキャンセルに関する範例を検討する。(PP.145-154)
	3	第1週および第2週における研究予定の事項中、未修の個所を学んで行く。
	4	第2週の続きとして、フランス国有鉄道に関する記述を検討する。通信文については、商品の列車による発送通知、受領通知等に関する範例(PP.155-165)
	5	水路運送についての記述事項をみる。通信文については、取調請求に関する範例を学ぶ。(PP.166-175)
	6	第5週の続き、および、空路運送について学ぶ。通信文については、商品の水路および空路による送達に関し、範例を研究する。(PP.176-186)
	7	第4週～第6週の記述中、未修の個所を検討する。
	8	商品の売捌に関する記述を研究する。通信文は、商品の配達についての苦情に関するものの範例を学ぶ。(PP.187-197)
	9	販売関係の書類についての記述を研究する。通信文は、商品の価格についての苦情に関する範例を学ぶ。(PP.198-208)
	10	現金決済に関する記述を研究する。通信文は、現金決済についての範例を学ぶ。(PP.209-218)
	11	期限付き決済に関する記述を研究する。通信文は、期限付き決済についての範例を学ぶ。(PP.219-228)
	12	第8週～第11週の記述中、未修の個所を検討する。
備考	()内は教科書の頁数を示す。	

参考文献：石井・川端共著「手紙と商業文」(大修館)

尾上著「フランス通信文の書き方」(白水社)

評価方法： 受講学生数多数(20名に近い人数または、これを越える人数)の場合は、(提出課題、試験等)前後期各1回筆記試験を実施し、受講生少数の場合は、レポート、または、授業時間中における読解力および、テーマ作成力による予定。

商業フランス語 3

担当者：松本 正

テキスト：フランス語経済記事の読み方 松本正著 (第三書房)

目 標：フランス語商業通信文の形式書き方の基本を習得させる。主たるテキストは松本講師が実社会で実際に発信、受信したものをプリントとして渡す。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
前 期	1 商業通信文(手紙)の性質
	2 商業通信文の形式・体裁
	3 料紙の体裁
	4 日付・宛名・レフェランス・オブジェについて
	5 頭書・呼掛け・の表現
	6 結尾の表現
	7 商業通信文に使用される略語
	8 招待状の基本形式
	9 招待状の書き方訓練と使用略語について
	10 実務文(発信文)の書き方訓練
	11 実務文(受信文)の書き方訓練
	12 経済界における紹介状の基本形式について
備 考	

	週	内 容
後 期	1	実務文（発信）の書き方訓練
	2	実務文（受信）の書き方訓練
	3	実務文（発信）の書き方訓練
	4	実務文（受信）の書き方訓練
	5	実務文（販路開拓依頼の受信文）について
	6	同上に対する回答（発信文）の書き方訓練
	7	前期・後期を通じて習得させた基本表現による書き方訓練
	8	同上
	9	副読本の主要文例により商業通信文にひんばんに使用される経済用語の習得訓練
	10	同上
	11	同上
	12	通信文・ファックスについて
備考		

評価方法： 前・後期のテスト並びに出欠状態により決定する。

（提出課題、試験等）

フランス語史

担当者：山田 秀男 研究室：[407]

テキスト：山田秀男著：『フランス語史』 駿河台出版社

目 標：フランス語の文法を学んでも、何故そうなるのか分からないことが少なくない。そうした疑問を、現代フランス語が形成される過程を見ることによって解明し、フランス語に関する知識と理解を一段と深めることを目指す。

年間予定 () 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	1年間の講義方針、講義内容、授業形態などの説明、参考文献案内から評価に関することまで全般にわたり、受講の決定に役立つ全情報を提供する。
	2	ローマ帝国とガリアとの関係を中心に、歴史的背景を概観し、フランス語の母体であるラテン語の特質を見る。(第1章, §1)
	3	第2回目の講義に続き、古典ラテン語と俗ラテン語、ロマン語についての概念を把握し、古フランス語の史的背景を概観する。(第1章, §2, 第2章, §1)
	4	古フランス語の語彙、発音、綴り字の特徴を見て、古フランス語の具体像を把握する。(第2章, §2, 3)
	5	古フランス語の文法・統辞論について学んだのち、文例により実際に古フランス語に触れる。(第2章, §4, 5)
	6	中期フランス語の時代背景を通観したのち、中期フランス語の語彙の特徴を見る。(第3章, §1, 2)
	7	中期フランス語の発音、綴り字の特徴を見たのち、中期フランス語の文法・統辞論を概観する。(第3章, §3, 4)
	8	中期フランス語の実際を、フロワサルとヴィヨンの引用によって、散文と韻文の両方で見ると。(第3章, §5)
	9	ルネサンス期の時代背景を通観したのち、ルネサンス期フランス語の語彙の特質を見る。(第4章, §1, 2)
	10	ルネサンス期フランス語の発音、綴り字の特徴を見たのち、文法・統辞論を概観する。(第4章, §3, 4)
	11	ルネサンス期フランス語の実際を、デュ・ベレーとモンテーニュの引用によって見る。(第4章, §5)
	12	前期のまとめと質疑応答により補足説明。
備考		

週	内 容
後 期	1 近代フランス語の第1回目として、十七世紀のいわゆる古典フランス語の時代背景を通観し、言語との関連を見る。(第5章, §1)
	2 古典フランス語の語彙、発音、綴り字の特徴を見たのち、文法・統辞論を現代フランス語と比較しながら検討する。(第5章, §2,3,4)
	3 古典フランス語の実際を、ヴォージュラとパスカルの引用によって見るとともに、現代フランス語との違いを検討する。(第5章, §5)
	4 十八世紀フランス語の時代背景を通観し、言語の面から時代の傾向と特色を見る。(第6章, §1)
	5 十八世紀フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論を概観し、その特徴を把握する。(第6章, §2,3,4)
	6 ヴォルテールとルソーの引用によって、十八世紀フランス語の実際を見るとともに、現代フランス語との比較を試みる。(第6章, §5)
	7 十九世紀フランス語の時代背景を通観し、その特色を把握するとともに、言語との関連を見ていく。(第7章, §1)
	8 十九世紀フランス語の発音、綴り字、文法・統辞論を概観し、その特徴を探るとともに、この時期に生まれた言語学にも触れる。(第7章, §2,3,4)
	9 十九世紀フランス語に大きな影響を与えたユゴーとリトレの引用を読み、その特質を探る。(第7章, §5)
	10 第1次世界対戦後の時代背景・社会状況を言語との関連において概観する。 (第8章, §1)
	11 現代フランス語の特徴を、語彙その他の面から検討し、現代語の変化の傾向を探る。(第8章, §2)
	12 後期のまとめと質疑応答による補足説明。年度末試験の課題と予告。
備考	

参考文献：講義中に、必要に応じて、実物を持参して紹介する。

評価方法：年度末に行う筆記試験と、出席状況（平常点）によって評価する。

（提出課題、試験等）

フランス語学特殊講義 1

担当者：一戸 とおる 研究室：[408]

テキスト：適宜コピー

目 標：前期は，フランス語にかかわる制度的なものを扱う。後期は，フランス語そのものの諸相を扱う。このことによって，フランス語の総合的な知識を深めることを目標とする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	授業の内容と進め方の説明，ならびに，フランス語圏関連の文献案内。
	2	フランス語圏関連文献案内（続き）。
	3	フランス語圏の歴史。
	4	フランス語圏を構成する各地域・国の概観。
	5	同上。
	6	同上。
	7	同上。
	8	フランス語圏を構成する各地域のフランス語の地位の歴史。
	9	同上。
	10	フランス語圏を構成する諸組織・団体の概観。
	11	フランス語圏を構成する各地域の言語政策の概観。
	12	同上。
備 考		

	週	内 容
後 期	1	音声学・音韻論（結合音声学，リエゾン，アンシェヌマン，etc.）
	2	同上。
	3	同上。
	4	綴りと発音。
	5	形態論（活用，曲用，派生，etc.）
	6	同上。
	7	同上。
	8	統辞論（動詞時制・叙法，副詞，接続詞，前置詞，etc.）
	9	同上。
	10	同上。
	11	同上。
	12	標準フランス語と非標準フランス語の比較。
備考		

評価方法：前期は，レポート，後期は，定期試験。

（提出課題、試験等）

フランス語学特殊講義 2

現代フランス語の仕組み

担当者：木下 光一 研究室：[416]

テキスト： 毎回私製のプリントを配布する。

目 標： 人間が物理的音声という手段によって相手に複雑な意味を伝えられるのはなぜか。そういう疑問から出発して現代フランス語の仕組みを考え直してみよう。次年度の講義と合わせてフランス語学研究の基礎を与えるのが目標。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	序説として、物理的世界と言語の世界との根本的ちがいを、日本語・フランス語の具体例をげて説明する。連続と不連続、言語単位、言語記号の性質。
	2	言語音の物理的分析と調音音声学的分析とのちがいから、フランス語の調音と国際音声字母の概説へ。フランス語の母音の練習方法をも示す。
	3	フランス語の半母音と子音。フランス語の発音の特長、とりわけ英語とのちがい。日本語・英語の影響を残さぬための注意。
	4	物理的（音響学的）特性と調音法との関係。両者がある種の変換によって結びつくところに一つの鍵があることを示す。
	5	フランス語の音節構造、音節の切れ目、フランス詩法と音節、アクセントと母音の長さ。以上5回の予備知識をもとに、次回から音韻論の立場に入る。
	6	音韻論的単位とは何か、最小対、1音素か2音素か。この回から、音声面での言語の世界の特徴が次第に具体的に明らかになる。
	7	変異体（ヴァリエント）の問題、自由変異体と条件変異体の別。以上2回の予備知識をもとに、次回からフランス語音韻論の諸問題を扱う。
	8	フランス語の口母音のうち、自由変異体に向かうものと条件変異体に向かうものについて。いわゆるe muetをどう扱うか。
	9	鼻母音のうち、自由変異体に向かうもの。音韻論の立場から鼻母音をどう考えるべきか。1音素か2音素か。生成音韻論の視点。
	10	母音の長短をどう考えるべきか。三つの半母音はすべて独立の音素か、それとも三つの母音の条件変異体か。[j]の自立性。
	11	子音の自由変異体。いわゆる有音のhをどう考えるべきか。フランス語の子音音素体系を組織立てるための視点。
	12	フランス語の音素体系を図示することを試みる。弁別特徴の組み合わせを表示した立体図：子音体系、母音体系。後期は音素と意味との接点に移る。
備考		

	週	内 容
後 期	1	意味との接点である記号、記号素。形態変化、不連続な形態、語より小さな記号素、分離できぬ記号素。言語による意味の切り取りの差。
	2	動詞の形態変化（活用）。直説法現在形語幹の変異体は、人称と単数・複数の別に応じ、わずか4種類の分布に帰着させることができる。
	3	動詞語幹の交代の機構は、意外に少数の規則の組み合わせとして分析することができる。潜在する過程という考え方と生成音韻論（日本語との対比）。
	4	記号素から統語論へ。部分疑問文の主語倒置とPourquoi…？の問題。一見極めて奇妙な制約。制約を生み出すものは何か。
	5	Que …？はなぜ単純倒置以外は不可能なのか。Pourquoi…？はなぜ複合倒置以外は不可能なのか。
	6	laisser + 不定詞 と目的補語代名詞。不定詞の目的語である代名詞を、ある場合だけlaisser の目的語の扱いにしなければならないのはなぜか。
	7	普通の人称構文に用いられる一部の自動詞に、なぜ非人称構文があるのか。その厳しい制限条件と英語の類似現象との対比。共通する誘因は何か。
	8	フランス語の代用語ENは唯一つのものか。ENのさまざまな用法。直接目的語の名詞部分のみに代るENと、de+定名詞句 に代るEN。
	9	不定詞を従えることのできる動詞、例えばespérer, vouloir, sembler, pouvoir は、すべて構文上同じ性質を持つと言えるか。
	10	語の基本的意味が統語上の制約にいかなる影響を及ぼすか。不定形容詞の意味と構文、運動の動詞の意味と構文。類義語の意味の差と構文。
	11	動詞の意味の完了性・未完了性と状況補語あるいは時称形との共起関係。動詞の意味のタイプと時制との複合効果。
	12	統語上の制約から類義的形容詞の基本的意味の差を見出す。具体的状況での使用の可能性から前置詞の基本的意味をとらえる。本年度講義のまとめ。
備考		各回冒頭に前回までの講義の要旨を述べる。講義中随時質問を受け、それに応じて説明を加え、とりあげる問題も若干変更することがある。

参考文献： それぞれの問題に応じその都度指示する。

評価方法： 受講者が比較的少ない場合は後期末に一括試験。多数ならば前期末、後期末（提出課題、試験等）ともに試験を行なう。プリント、辞書、参考文献、ノートなどすべて持込み自由であるが、自ら考えをまとめて論じなければならぬ出題であるから、講義内容の精確な理解と全体を一貫するとらえ方がともに必要となる。

フランス文学各論 1

近代フランス語の形成と文学

担当者：井村 順一 研究室：[]

テキスト： 適宜プリントを配布する。

目 標： 今日われわれが接しているフランス語はほぼ17世紀前半にその形を整えた。この時期の文学作品は言語文化史上どのように位置づけられるか—こうした問題を事例とともに検討する。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	〈フランス語史の概観〉 最初の作業として、きわめて巨視的にフランス語の歴史を眺める。
	2	〈フランス語史における近代フランス語の位置づけ〉 われわれの接しているフランス語とはどんな言語か。その特徴を考える。
	3	〈近代フランス語成立の予備段階—16世紀の位置づけ〉 印刷という制度の確立したこの時期の人々が自分たちの言語について考えたこと。
	4	〈16世紀の言語表現の例〉 たとえばラブレールやモンテーニュの文章は、現在のフランス語で綴った文章とどう異なるか。
	5	〈言語表現の変容—マレルブの役割〉 文法家マレルブがフランス語のあるべき姿について考えたこと。
	6	〈マレルブの言語表現〉 詩人マレルブの作品の事例。
	7	〈文芸サロンの位置づけ〉 17世紀初頭のパリで、サロンという特殊なコミュニケーションの場が成立した過程。
	8	〈会話と文学〉 サロンと文学との関係。その事例。
	9	〈プレシオジテの問題〉 サロンでは言語表現の一つの姿勢「プレシオジテ」が問題になった。それがどんな現象であるかを説明する。
	10	〈プレシオジテの問題(つづき)〉 「プレシオジテ」とこの時期の文学との関係。その事例。
	11	〈アカデミー・フランセーズの成立とその経緯〉 サロンが拡大し、国家的機関にまで発展する過程、およびその社会的背景。
	12	〈アカデミー・フランセーズの役割〉 この時期アカデミーが行ったこと。言語表現と社会制度との関係。
備考		

	週	内 容
後 期	1	〈ルイ13世風文体〉 この時代の表現の方法はどのように培われて行ったか。デカルトとコルネイユの場合を例にとって考える。
	2	〈劇文学の意味〉 再びコルネイユを引用し、この時代隆盛をみた劇文学の意味について考える。
	3	〈新思潮の出現〉 パスカルというすぐれた思想家が新思潮をもたらすとともに新しい言語表現を模索したこと。その実例。
	4	〈モリエールと喜劇〉 喜劇の確立によってひらけた劇文学の新たな局面。
	5	〈モリエールと喜劇(つづき)〉 そのいくつかの実例。
	6	〈ラ・フォンテーヌの場合〉 制度の枠と自由な発想とのはざままで創作を続けた詩人の例。
	7	〈新制度の確認——ボワロー〉 近代フランス語による表現の指針をあたえた批評家の紹介。
	8	〈ラシーヌと悲劇〉 時代の要請に適合する悲劇を作った劇詩人の場合。ここで「古典主義」の意味について考える。
	9	〈ラシーヌと悲劇(つづき)〉 作品の実例。
	10	〈説教壇上のパフォーマンス〉 劇文学に対抗して文芸上のジャンルとして脚光を浴びた説教。ボシュエ、ブールダルー等の例。
	11	〈プレシオジテの去就〉 セヴィニエ夫人等の例とともにすでに取りあげた作品を例にとって、この技法を再検討する。
	12	〈結論〉 言語表現という観点から、この時代の文学作品が果たした役割を総括する。
備考	受講者の理解度に応じ、進度・内容等の若干の変更もありうる。	

参考文献： 取りあげる問題に応じそのつど指示する。

評価方法： ノート・参考文献等持ち込み自由で、各自の見解を問う論文式の筆記試験(提出課題、試験等)を行う。前後期末に2回行うか後期末のみにするかは受講者の数を見てから決定する。

フランス文学特殊講義1

ラシーヌ概説

担当者：川俣 晃自

テキスト：必要に応じて、コピーして配布する。

目標：フランス文学の精華とされているジャン・ラシーヌの作品を概観する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
1	ラシーヌの生い立ちについて述べる。
2	少年時代のラシーヌの詩作について述べる。
3	第一作「ラ・テバイド」《LA THÉBAÏDE》について考える。
4	「ラ・テバイド」のテキストを読む。
5	第二作「アレクサンドル大王」《ALEXANDRE LE GRAND》について考える。
6	「アレクサンドル大王」のテキストを読む。
7	第三作「アンドロマック」《ANDROMAQUE》について考える。
8	第三作「アンドロマック」のテキストを読む。
9	第四作「裁判気ちがい」《LES PLAIDEURS》について略説してから、第五作「ブリタニキウス」《BRITANNICUS》について考える。
10	「ブリタニキウス」のテキストを読む。
11	第六作「ベレニス」《BÉRÉNICE》について考える。
12	「ベレニス」のテキストを読む。
備考	

	週	内 容
後 期	1	第七作「バジャゼ」《BAJAZET》について考える。
	2	「バジャゼ」のテキストを読む。
	3	第八作「ミトリダード」《MITHRIDATE》について考える。
	4	「ミトリダード」のテキストを読む。
	5	第九作「イフィジェニー」《TPHIGÉNIE》について考える。
	6	「イフィジェニー」のテキストを読む。
	7	第十作「フェードル」《PHÈDRE》について考える。
	8	「フェードル」のテキストを読む。
	9	第十一作「エステル」《ESTHER》について考える。
	10	「エステル」のテキストを読む。
	11	第十二作「アタリー」《ATHALIE》について考える。
	12	「アタリー」のテキストを読んでから、ラシーヌの戯曲全体を展望する。
備 考		

参考文献：Racine, Oeuvres complètes, tome 1, Pléiade Gallimard.

評価方法：前期，後期の終りに、それぞれ試験を行う。

(提出課題、試験等)

フランス文学特殊講義 2

悲劇の系譜

担当者：松山 恒見

研究室：[410]

テキスト：なし。

目 標：ギリシャに誕生した悲劇というジャンルは、ジャンルとしては十八世紀に死滅しているが、その後の演劇の中はもちろん、形を変えて小説の中にも、その伝統は尾を曳くわけであり、その概観と、各種の問題点に迫ること。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	序説。悲劇とは何か。年間の講義プランについて。
	2	悲劇の誕生。ギリシャ悲劇の発生からアイスキュロスまで。
	3	ソフォクレス（次回も含め、理解の補助として第2回、3回、4回は、随時ギリシャ神話についての知識を与える。）
	4	エウリピデス（ギリシャ悲劇が後世に及ぼした影響を把握するためには、ここでアリストテレスの「詩学」の話を加える必要がある。）
	5	ローマ時代および中世
	6	フランス・ルネッサンス。ギリシャ・ローマの悲劇の復活の試み。
	7	シェイクスピア。飛び入りのように見えて実はそうではない。しかし、この段階では、先ずシェイクスピア劇そのものについて学習せしめる。
	8	バロックから古典主義へ。
	9	コルネイユからラシーヌへ。
	10	ラシーヌ。
	11	ラシーヌ（続）
	12	ラシーヌ以後と十八世紀。ヴォルテール。ディドロ。（ここまで取り上げた諸作家の諸作品のどれか一つについてのレポートを書かせる。）
備 考		

	週	内 容
後 期	1	ロマンチズム。フランスにおけるシェイクスピア。
	2	十九世紀後半から二十世紀
	3	エディプス伝説。ギリシャからヴォルテールを経てコクトーへ。
	4	エディプス伝説。(続) ソフォクレスからアヌイへ。
	5	その他のギリシャのテーマの現代版。ジロドウ。サルトル。カミュ。
	6	悲劇の終焉とその回帰。G. スタイナーと、J. Mドムナックの所説。
	7	その他の諸家の悲劇論。
	8	悲劇の登場人物 (この時間および第9回、第10回、第11回の4回については 随時、テキストの抜萃を配布して、実例にふれさせる。)
	9	悲劇の構造
	10	宿命と自由。または神と人。
	11	カタルシス論その他。
	12	予備。順調に行った場合は、年間の学習の総括。
備 考		

評価方法：前期の最終時間に要求したレポートを前期テストの代りとするので、前期末(提出課題、試験等)にテストは行わない。レポートの提出期限は、後期第二回目の講義時間とする。この評価と学年末テストの評価とを同等の比重で扱って最終評価とする。

フランスの地誌

担当者：鈴木 隆 研究室：[418]

テキスト：なし。資料を適宜配布する。

目 標：フランス人の生活、文化、社会、経済等の基盤としての都市および地域の構造を理解する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容	
前 期	1	地域の概念と実体についての総論的説明を行う。	
	1	フランスの国土と地域区分について説明する。	
	2	中心地理論とそのフランスへの適用の事例を紹介する。	
	2	パリ盆地とイル・ド・フランス地域の構造について説明する。	
	3	シャンパーニュ・アルデンヌ地域の構造について説明する。	
	3	ピカルディ地域およびオート・ノルマンディ地域の構造について説明する。	
	4	サントル地域の構造について説明する。	
	4	フランス西部の地域の構造について説明する。	
	5	バス・ノルマンディ地域およびブルターニュ地域の構造について説明する。	
	5	ペイ・ド・ラ・ロワール地域およびポワトゥ・シャラント地域の構造について説明する。	
	6	南西フランスとアキテーヌ地域の構造について説明する。	
	6	ミディ・ピレネ地域の構造について説明する。	
	備考	週2コマ行ない、前期完結とする。	

	週	内 容	
前	7	南フランスとラングドック・ルシヨン地域の構造について説明する。	
	7	プロヴァンス・コート・ダジュール地域の構造について説明する。	
	8	フランス南東部とローヌ・アルプ地域の構造について説明する。	
	8	ブルゴーニュ地域の構造について説明する。	
	9	フランス中央山塊地帯とオヴェルニュ地域およびリムザン地域の構造について説明する。	
	9	東フランスとロレーヌ地域の構造について説明する。	
	10	アルザス地域およびフランシュ・コンテ地域の構造について説明する。	
	10	ノール地域の構造について説明する。	
	期	11	フランスの都市の起源と都市網の形成について説明する。古代から中世まで。
		11	フランスの都市の起源と都市網の形成について説明する。中世から近世まで。
12		都市の景観と構成について説明する。	
12		農村の景観と構成について説明する。	
備考			

参考文献：参考文献は講義中に適宜紹介する。

評価方法：試験を行なう。出席をとり、平常点の参考にする。

(提出課題、試験等)

フランスの歴史

担当者：藤田 朋久 研究室：[424]

テキスト：特定のテキストは用いない。参考資料を毎回配布する。

目 標：フランス史の基礎知識を習得することを目的とした講義。時代ごとに概観をおこない、又、個別的な問題を取りあげて解説する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	I. 入門：授業計画および辞典、参考文献などの説明。
	2	入門（続）：「フランス史」の全体的概観（人口動態史の例）。
	3	II. 先史時代からケルト時代へ：移動と定住
	4	先史時代からケルト時代へ（続）：文化・宗教
	5	III. ガロ・ローマ期：ガリアの征服と帝国下の統治構造
	6	ガロ・ローマ期（続）：都市と農村
	7	IV. 初期中世：概説
	8	初期中世（続）：古代世界の崩壊と中世世界の成立について
	9	V. 10-11世紀の社会：概説
	10	10-11世紀の社会（続）：「封建革命」について
	11	VI. 12-13世紀の社会：概説
	12	12-13世紀の社会（続）：中世教会と「民衆文化」について
備考		

	週	内 容
後 期	1	VII. 14 - 15世紀の社会：概説
	2	14 - 15世紀の社会（続）：身分制議会について
	3	VIII. 16世紀の社会：概説
	4	16世紀の社会（続）：カトリシズムとプロテスタンティズム
	5	IX. 17世紀の社会：概説
	6	17世紀の社会（続）：「社団国家」について
	7	X. 18世紀の社会：概説
	8	18世紀の社会（続）：「アンシアン・レジーム」変容の諸相
	9	XI. フランス革命：概説
	10	フランス革命（続）：革命をめぐる「修正主義」について
	11	XII. 19世紀の社会：概説
	12	19世紀の社会（続）：「女性史」の諸問題
備考		

参考文献：井上幸治編『フランス史』山川出版社

河野健二著『フランス現代史』山川出版社

木村尚三郎、志垣嘉夫編『概説フランス史』有斐閣選書

（他の参考文献については、そのつど指示する。）

評価方法：評価は、前期レポート（9月末提出）と後期試験による。

フランスの哲学

担当者：若森 栄樹 研究室：[419]

テキスト：現代フランス哲学の重要な作品の抜粋をプリント配布する。

目 標： 現代フランス哲学の主要な傾向と流れを概観し、ヨーロッパ的思考方法を学び、それについて考えること

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	第1回目の授業では、1年間の講義概要の説明を行ない、参考書等を指示する。
	2	第2回目の授業では、現代フランス哲学に大きな影響を与えたマルチン・ハイデッガーの哲学を、とくに『存在と時間』を分析しつつ紹介する。
	3	同上(2)
	4	同上(3)
	5	同上(4)
	6	同上(5)
	7	第7回目の授業ではフロイトの精神分析の理論を解説する。これは後期で扱う何人かの哲学者の思考への導入部となるものである。
	8	同上(2)
	9	同上(3)
	10	同上(4)
	11	同上(5)
	12	第12回目の授業では(1)前期授業のまとめと(2)レポートのテーマの発表を行う。
備考		

	週	内 容
後 期	1	現代フランスの最も重要な哲学者のひとりエマニュエル・レヴィナスの哲学を原文を読みつつ、説明する。
	2	同上(2)
	3	同上(3)
	4	同上(4)
	5	哲学者ジャック・デリダの思考を概観する。とくに《feu la cendre》(1987, Editions des femmes)を中心に。
	6	同上(2)
	7	同上(3)
	8	同上(4)
	9	現代フランスの精神分析学者ジャック・ラカンの理論を、フロイトとの関連を中心に解説する。
	10	同上(2)
	11	同上(3)
	12	(1)後期のまとめと(2)後期レポートのテーマの発表を行なう。
備 考		

参考文献： 文献については授業の際に指示するが、

(1)エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限』（邦訳あり）

(2)Jacques Derrida, *Marge, de la philosophie*, 1967.

Minuit（部分訳あり）

などがさしあたり挙げられる。

評価方法： 前・後期のレポートを中心に評価を決定する。

（提出課題、試験等）

フランスの美術

担当者：前川 久美子 研究室：[409]

テキスト：

目 標：美術作品の新しい分析方法を理解し、中世、キリスト教、中世美術一般について、幅広く学ぶ。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	イントロダクション
	2	
	3	
	4	黙示録写本と絵画
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	詩篇集写本と絵画
	10	
	11	
	12	
備考		

週	内 容
1	
2	
3	聖人伝写本と絵画
4	
5	
6	
7	
8	
9	中世の読者と絵本
10	
11	
12	
備考	

フランスの音楽

担当者：松橋 麻利

テキスト：準テキスト：D. J. グラウト著「西洋音楽史」上・下（音楽之友社 1971）

目 標：バロック時代（17C～18C前半）と19世紀後半のフランス音楽に焦点を当てる。後者が前者から何を学んだか、そして社会や他の芸術と、また周辺の国々と係わりながら、どのように独自性を打ち出していったかを見ていく。

年間予定

（ ）曜日：（ ）限：（ ）棟（ ）

週	内 容
前 期	1 導入：西洋音楽史においてフランス音楽の2つの黄金期といわれるバロック時代と19世紀後半を比較しながらの概説。
	2 バロック以前の音楽史1：西洋音楽発展の源であるグレゴリオ聖歌から種々の多声音楽への流れを概観。
	3 バロック以前の音楽史2：グレゴリオ聖歌と平行して発展した中世の世俗声楽曲と器楽曲について。
	4 バロック以前の音楽史3：ルネサンス音楽の概観。
	5 バロック音楽1：ルネサンス音楽とバロック音楽の様式上の相違とバロック時代の幕開けとなるオペラの起こりについて。
	6 バロック時代2：バロック・オペラ隆盛の出発点を画するモンテヴェルディのオペラ《オルフェオ》の鑑賞。
	7 バロック時代3：ルイ王朝におけるフランス・バロック・オペラ、宮廷バレエ、コメディ・バレエの作曲家リュリについて。
	8 バロック時代4：同時代のフランス教会音楽の作曲家シャルパンティエについて。
	9 バロック時代5：同時代の器楽を担うフランス・クラヴサン楽派の代表的作曲家クープランについて。
	10 バロック時代6：劇場音楽、器楽、そして理論においてフランス・バロック音楽を集大成するラモーについて。
	11 バロック時代7：バッハ、ヘンデルらのドイツ・バロック音楽との総合的な比較。
	12 試験
備考	

	週	内 容
後 期	1	ヴェーバーのオペラやドラクロワの絵画などを例にとりながらロマン主義とは何かについて考える。
	2	シューベルト、シューマン、ショパンらの歌曲やピアノ曲を例にドイツ・ロマン主義の特徴を探る。
	3	フランス・ロマン主義の代表的作曲家ベルリオーズの作品の歴史的意味について。
	4	ドイツ歌曲とフランス歌曲の比較1：フランス歌曲の創始者グノーを中心に。
	5	ドイツ歌曲とフランス歌曲の比較2：グノーの後継者フォーレを中心に。
	6	象徴主義文学と音楽1：ヴェルレーヌの詩とフォーレ、ドビュッシーの歌曲を中心に。
	7	象徴主義文学と音楽2：マラルメとドビュッシーの管弦楽曲《牧神の午後へ前奏曲》を中心に。
	8	象徴主義文学と音楽3：メーテルリンクとドビュッシーのオペラ《ペレアスとメリザンド》を中心に。
	9	サティ、ドビュッシー、ラヴェルのピアノ曲における古様式と新しい感覚の融合について。
	10	20世紀音楽への新しい道1：ヴァーグナー以後のシェーンベルクの場合。
	11	20世紀音楽への新しい道2：ドビュッシーの場合。
	12	試験
備考		

評価方法：19世紀後半からのフランス音楽は、過去の音楽の遺産を糧として未来の音楽（提出課題、試験等）への道を模索したところがあり、その様子を検証しながら歴史を学ぶことの意義を考える契機にしたいので、受講者が多くの音楽体験を通して自分なりに考えていく点を評価する。試験内容もそれを問う形のものになる。

フランスの演劇

担当者：江花 輝昭

研究室：[427]

テキスト：モリエール『町人貴族』（岩波文庫）

目 標：ビデオ、CD等を併用して、フランス演劇の代表的作品を多角的な角度から研究、鑑賞する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
前 期	1 第1回目の授業では年間の講義概要について説明し、劇作家モリエールおよびその時代について解説する。
	2 第2回目の授業では、モリエールの時代の演劇状況、演劇理論等について講義する。
	3 第3回目の授業では、『町人貴族』という作品成立のプロセス、背景等について講義する。
	4 第4回目の授業では、具体的な『町人貴族』の作品分析に入る。 (テキスト pp. 6-10)
	5 第5回目の授業以降しばらく作品分析を継続して進める。 (テキスト pp. 10-20)
	6 作品分析の続き (テキスト pp. 21-30)
	7 作品分析の続き (テキスト pp. 30-38)
	8 作品分析の続き (テキスト pp. 38-46)
	9 作品分析の続き (テキスト pp. 46-54)
	10 作品分析の続き (テキスト pp. 54-63)
	11 作品分析の続き (テキスト pp. 63-70)
	12 第12回目の授業では前期のまとめを行ない、後期への課題を検討する。
備考	

	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では、前期に扱った問題を振り返り、後期の授業計画について説明する。
	2	第2回目の授業以降再び作品分析を継続して進める。(テキスト pp. 70-77)
	3	作品分析の続き(テキスト pp. 77-84)
	4	作品分析の続き(テキスト pp. 84-89)
	5	作品分析の続き(テキスト pp. 90-97)
	6	作品分析の続き(テキスト pp. 97-104)
	7	作品分析の続き(テキスト pp. 104-112)
	8	作品分析の続き(テキスト pp. 112-121)
	9	第9回目の授業では作品全体を総括し、授業を通じて浮かび上がってきたテーマについて解説する。
	10	第10回目の授業では、継続して全体的テーマについて解説する。
	11	第11回目の授業では年間のまとめを行ない、レポートの課題を発表する。
	12	第12回目の授業ではレポートを提出し、年間の授業について総括し、討論を行なう。
備 考		

参考文献：フランス文学講座4『演劇』（大修館書店）

評価方法：評価は年1回のレポートによって行なう。ただし授業への出席率に一定の基（提出課題、試験等）準を設け、それが満たされない場合にはレポートの提出権が与えられない。

フランス事情

担当者：小石 悟

研究室：[417]

テキスト：プリント

目 標：フランスの現在の状況を幅広くカバーするように、下記の項目を取扱います。
 問題点をより具体的に理解するために日本との比較を行ないますので、自分で調べなければならないこともあります。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	講義概要および調査の仕方の説明
	2	フランスの地方
	3	パリと郊外
	4	社会問題（社会階層・移民・犯罪）
	5	職業・失業問題
	6	社会保障
	7	健康・医療
	8	バカンス・余暇
	9	メディア（テレビ・ラジオ）
	10	メディア（新聞・週刊誌）
	11	映画
	12	スポーツ・音楽
備考		

	週	内 容
後 期	1	家庭生活
	2	子供・老人問題
	3	結婚・同棲・離婚
	4	教育制度
	5	消費生活
	6	価値観
	7	宗教
	8	政治
	9	経済
	10	ヨーロッパの中のフランス
	11	フランスのイメージ
	12	一年間の講義の総括
備考		

参考文献：その都度指定する。

評価方法：出席率・レポート・試験（すべて行ないます）

（提出課題、試験等）

週	内 容
1	フランス外交の特色。ゴースムの遺産とゴースムからの脱却。
2	外交の手段としての軍事力、海外県・海外領土。
3	外交政策決定過程。組織と人事、大統領の外交のスタイル。
4	1981年～1983年ミッテランの対第三世界積極外交。
5	同期アフリカ仏語圏重視への政策の軌道修正。
6	大統領権限強化に対応するレバノン、チャド介入。
7	ヨーロッパ重視への政策転換。フランス社会党の国防政策とユーロミサイル事件。
8	ニューカレドニア問題。
9	グリーンピース事件。
10	コアビタシオンと外交の変化。グリーンピース事件の始末とニューカレドニア問題の再燃。
11	第二次ミッテラン政権。冷戦の終結と湾岸戦争。
12	国連重視政策と人道援助外交。
備考	

参考文献： ハイワード フランス政治百科 上下 勁草書房

評価方法： 前期、後期それぞれ課題を提示して、レポートを休み前までに提出させる。
 (提出課題、試験等) 評価は、これら二つのレポートの結果による。

フランスの経済

担当者：千代浦 昌道 研究室：[813]

テキスト：Japan 1994:An International Comparison (経済広報センター)

原 輝史編『フランスの経済』(1993年、早稲田大学出版部)

目 標：本来の目的は、フランス経済の歴史と現状を明らかにし、その分析を私たちを取り巻く国内・国外の経済問題の見方・考え方に役立てることであると思う。フランス経済はそのための材料に過ぎない。しかし、非常に面白い材料である。

年間予定 () 曜日：() 限：() 棟()

週	内 容
前 期	1 (1)授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 (2)最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識
	2 (1)簡単な経済専門用語の基礎知識、(2)フランス経済の基礎データの説明 (テキスト：「Japan 1994:An International Comparison」)
	3 近代におけるフランス経済の発展：経済発展と工業化についての基礎知識
	4 近代におけるフランス経済の発展：フランスの産業革命の特徴
	5 近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史Ⅰ（アンシャン・レジーム下の経済と社会）
	6 近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史Ⅱ（フランス大革命とナポレオンの時代）
	7 近代におけるフランス経済の発展：農業と産業革命
	8 近代におけるフランス経済の発展：工業化と人口問題
	9 近代におけるフランス経済の発展：天然資源と工業化
	10 近代におけるフランス経済の発展：国内産業の保護、植民地経営と工業化
	11 近代におけるフランス経済の発展：金融制度の発展と工業化
	12 近代におけるフランス経済の発展：工業化の社会的諸条件
備考	ヨーロッパ/フランスの近代史に興味を持ってください。

週	内 容
1	戦後フランスの経済：戦後フランスの政治と経済の歴史（年表配布）
2	戦後フランスの経済：経済計画と第1次国有化
3	戦後フランスの経済：ドゥゴールとポンピドゥーの経済政策
4	戦後フランスの経済：ジスカールデスタンとバール・プラン
後 期	5 戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計Ⅰ （テキスト：「Japan 1994:An International Comparison」）
	6 戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計Ⅱ （テキスト：「Japan 1994:An International Comparison」）
	7 戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計Ⅲ （テキスト：「Japan 1994:An International Comparison」）
	8 戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策Ⅰ（第2次国有化と社会主義政策）
	9 戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策Ⅱ（コアビタシオンと民営化）
	10 戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策Ⅳ（欧州経済共同体とフランス経済）
	11 戦後フランスの経済：ミッテランの経済政策Ⅴ（バラデュール内閣の経済政策）
	12 戦後フランスの経済：まとめ（成長、失業、インフレ、貿易、フランスの地位）
備考	新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけてください。

参考文献：井上幸治編『フランス史（新版）』（1974年、山川出版社）

長部重康編『現代フランス経済論』（1983年、有斐閣）

清水貞俊編『フランス経済を見る目』（1984年、有斐閣）

原 輝史、宮島 喬編『フランスの政治』（1993年、早稲田大学出版部）

評価方法：前期、後期の2回の筆記試験による。ただし、事前に予測問題を出題して、（提出課題、試験等）その中から2～3題を出題する形式をとる。筆記試験の際のノート/テキストなどの持ち込みは不可。

フランス文化特殊講義 1
十七世紀フランス思想（パスカル）

担当者：佐藤 正之 研究室：[403]

テキスト：特に定めない。随時プリント配布。

目 標：パスカルの人と思想を十七世紀フランス思潮のなかに位置づけて理解を深め、
人間研究の様々な問題について考察する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
前 期	1 一年間の講義概要 参考文献 序説：時代の概観（1）
	2 序説：時代の概観（2）
	3 パスカルの生い立ち
	4 科学者パスカルの仕事
	5 社交生活 ――回心
	6 （未定）
	7 幾何学の精神と繊細の精神
	8 原子と宇宙 ――二つの無限
	9 考える葦 ――人間の条件
	10 人間の偉大と悲惨
	11 パスカルとデカルト
	12 （未定）
備考	

	週	内 容
後 期	1	ユマニスムと宗教改革
	2	モンテーニュ
	3	真理を求めて — 懐疑論と独断論
	4	Port-Royalについて — Jansénismeの教義
	5	<i>Provinciales</i> 論争 — 理性の服従と行使
	6	恩寵論 — 人間の自由意思と宿命
	7	(未定)
	8	自由思想
	9	『パンセ』
	10	賭けの理論 — 行為の選択
	11	三層の異次元世界 <i>Dialectique</i>
	12	(未定)
備考	以上の年間予定は1993年10月現在の机上構想であって、今後の準備の進展により、また講義を進めながら、参加学生の関心や問題意識を考慮して変更することがある	

参考文献： 『世界の名著 パスカル』中央公論社 その他は教室で指示。

評価方法： 授業参加度・レポート・筆記試験その他のいずれにするかは履修登録者数（提出課題、試験等）にもよるので、第一回の授業の際にきめて述べる。

フランス文化特殊講義2

担当者：鈴木 隆

研究室：[418]

テキスト：なし。

目 標：前期は、フランスをはじめとするヨーロッパの都市の意味を理解する。
後期は、建築の歴史を通してフランスおよびヨーロッパの文化を学ぶ。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	都市とは何かについての議論を通してヨーロッパの都市の基本概念を把握する。
	2	都市の起源を調べ、歴史的存在としての都市を知る。
	3	人口動態を通して近代の都市を捉える。
	4	近代の大都市の諸問題とそれをめぐる議論を振り返る。
	5	理想都市論を通して都市のあり方を考える。
	6	近代化を目指しての都市改造とそれをめぐる議論を通して都市のあり方を考える。
	7	都市の中心性とその意味を考える。
	8	都市の構造をとくに地域分化の視点から考える。
	9	景観とその意味について考える。
	10	都市の景観と組成の分析を通して都市の特性を把握する。
	11	情報化と都市空間について考える。
	12	前期の総括
備 考		

	週	内 容
後 期	1	古代ギリシャの建築の特徴について説明する。
	2	古代ギリシャの建築の実例を紹介する。
	3	古代ローマの建築の特徴について説明する。
	4	古代ローマの建築の実例を紹介する。
	5	中世初期の建築およびロマネスク建築の特徴について説明する。
	6	フランスのロマネスク建築の実例を紹介する。
	7	フランスのロマネスク建築との比較のために、ドイツなどの他のヨーロッパの国のロマネスク建築の実例を紹介する。
	8	ゴシック建築の特徴について説明する。
	9	フランスのゴシック建築の実例を紹介する。
	10	フランスのゴシック建築との比較のために、ドイツやイギリスなどの他のヨーロッパの国のゴシック建築の実例を紹介する。
	11	ルネサンスの建築について説明する。
	12	とくに、フランスにおけるルネサンス建築について説明する。
備考		

参考文献：参考文献は、必要に応じて、講義の中で紹介する。

評価方法：前期および後期に試験を行ない、その結果を評価の主な判断材料とする。

(提出課題、試験等)そのほか、出席をとり、その結果も評価の参考とする。

フランス文化特殊講義 3

第二帝政期の社会と文化

担当者：横地 卓哉

研究室：[420]

テキスト：

目 標：第二帝政期（1852～1870）のフランスの社会・文化を総体的にとらえ、フランスにおける「現代」の成立について考察する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
1	I. 導入：年間の授業計画の説明・参考文献の紹介
2	II. 前史・第二帝政の成立（1）：二月革命
3	（2）：二月革命（続き）
4	（3）：1848年12月10日の大統領選挙
5	（4）：1851年12月2日のクーデター
6	III. 第二帝政の政治（1）：支配体制
7	（2）：外交
8	（3）：内政（経済政策を中心として）
9	IV. 第二帝政の社会（1）：オスマンのパリ
10	（2）：オスマンのパリ（続き）
11	（3）：パリ万国博覧会
12	（4）：パリ万国博覧会（続き）
備考	

週	内 容
1	IV. 第二帝政の社会 (5) : 女たち (続き)
2	(6) : 人々の生活
3	(7) : 人々の生活 (続き)
4	(8) : ジャーナリズム
5	V. 第二帝政の文化 (1) : シャルル・ボードレー
6	(2) : ウージェヌ・ラビッシュ
7	(3) : ジャック・オッフエンバック
8	(4) : エドゥアール・マネ
9	(5) : ナダール
10	VI. 帝国の崩壊 (1)
11	(2)
12	VII. まとめ
備考	

参考文献：主要な文献は第一回めに、他はそのつど紹介する。

評価方法：レポート、出席状況等により評価する。なお、希望者にはレポートにかわる口頭発表の機会をもうける。